1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390600146		
法人名	社会福祉法人　　博愛会		
事業所名	グループホームさらき		
所在地	岩手県北上市更木343－320－1		
自己評価作成日	平成26年5月29日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0390600146-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の祭りや行事に参加したり、子供達とふれ合える時間を持てるように援助します。また外食やドライブ、畑仕事や行事などを個別に計画し、家での生活を少しでも維持できるように援助します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

北上川東岸沿いの台地に所在する国指定史跡である縄文時代の八天遺跡に近接した場所で、比較的閑静な環境の中で、博愛会「八天の里」の福祉関係諸施設が所在し、「グループホームさらき」も同敷地内に設置され、密接な関係を保っている。「グループホームさらき」の建物内壁は白を基調としており、全体的に明るく、清潔感を醸し出し、利用者の心を和らげている。食事を楽しむためにも、毎食を割り当てられた職員が「検食簿」に記入チェックし、それを反省資料とし、献立や調理方法、あるいはバイキングに活かしている。入浴は、時間に弾力的で自由度があり、浴槽も一般用と身障者用がある。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に、基本理念の「心温まるケアを目指して」を職員で唱和し、理念を共有・実践に努めています。	理念は、法人全体の理念でホーム単独のものは作っていない。朝会時の唱和によって、共有を図っており、効果を感じている。グループホーム設立時、職員間で法人全体の理念を基に捉えながらも、ホームとしての理念や目標を考える動きもあった。ホーム独自の目標等を具体的に考えることも一つの方向と思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加に努めています。地区民の理解と協力もあり、定期的な交流が図られています。	縄文祭り、文化祭、更木小学校行事等々に、積極的に参加し、地域との交流を深めている。ただ、地域の一員としての事業所のあり方や、日常的な交流の在り方等、地域と双方向の付き合い方法を探るなど、一歩踏み込んだ地域交流の取り組みも考えていってほしい 。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加に努めています。参加を重ねることで、地区民の理解と協力も年々スムーズになってきています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告し、意見等参考にしています。	2ヶ月ごとに開催している。ホームの状況を説明・報告しながら、委員の方々からの意見も求めている。例として、駐在さんから、「徘徊等と関連して、利用者の写真を提供できないか」ということがあったが、現在、個人情報等の取扱いも踏まえて検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進委員会を開催し、連絡を密にしています。また生活保護や地域包括支援センターとは、文書や電話でその都度確認しています。	市の福祉関係の担当とは、介護保険給付手続きやその他事務関係の諸々について、直接、報告や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを職員に周知し、日常の見守りを重視しています。	職員の意識が大切なので、研修が重要であると考え、その共有にも努めている。毎日の職員会議で取り上げること、年1回の基本的な研修会をおこなっている。身体的なことから、心理的な部分の拘束に至るまでの幅広いケースについて話し合われている。ホームの施錠は、夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないよう注意し、防止に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者がいないため、行っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書を読み合わせ、説明した上で契約しています。また退去時の決定通知も同様に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望があった時には、できる限り対応するように努めています。	年1回の家族会等においても、あまり運営に関する意見は出ない。意見・要望等があれば、検討し、可能なものについては、反映することとしている。家族からは感謝の言葉を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見や提案を聞き、法人の会議で報告しています。	職員は、日常の場や職員会議において意見を出すことが出来る。出された意見等は、内容により、手順を踏んだ上で、反映している。業務内容の改善・職員の要望が取り上げられた例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修機会や資格取得の奨励などに努め、一部報奨金も用意しています。また職員のレベルにあわせて、研修参加を計画しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせ、外部研修や施設内研修を計画的に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会などに出席しています。また他のグループホームと交換研修し良い刺激になり、今後も機会があれば計画していきます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や担当ケアマネから情報をいただき、施設での役割を準備しています。また、家族も含めケース担当との時間を多く持てるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時は施設見学と、1日の流れ、参加行事などを説明しています。また、入居希望者の現状を聴き、入居希望者にとって必要と思われるサービスの提供をさせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者は「何が出来るのか」「何をしたいのか」を本人や家族と話し合い、目的を明確にしてから支援します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士の支え合う関係を出来るだけ築くため、「役割」を持てるように支援していきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族懇談会に施設や入居者の報告を行い、意見交換の時間を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のふるさと訪問や地元の行事参加などの時間を設けています。地元の床屋さんに髪を切ってもらう入居者や、なじみの商店で買い物をする入居者もいます。	北上市の各地域や隣接（更木は花巻に隣接）する花巻市の行事には、極力出かけて、馴染みの人や場に接している。また、最近では更木地区（地区出身者4名）運動会にも行って来た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ケアプランで役割を持ち、入居者同士が関わり合えるように援助しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者のほとんどはなくなられていますが、その家族が毎年クリスマスや節分などケーキやお菓子を持って来てくれました。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で入居者の思いを把握し、ケアプランに取り入れ支援しています。	日常の生活における利用者の言動を見守りながら、あらゆる機会を通じて、その思いや意向を把握することに努め、職員が共有しながら、ケアにあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者、家族、前担当ケアマネなどから情報をいただき、ケアプランに取り入れ支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーテイングの他、毎月の会議などで心身の状況変化の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員会議で見直しをしています。入居者の変化や追加希望があればその都度、家族と職員と検討しています。	一人ひとりの利用者のアセスメントを基に家族の意見等も参考にしながら、プランの素案を職員で検討し、モニタリングしながら、ケース記録によって、3ヶ月に1回見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録として記入し、介護計画の参考にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせたサービスの対応に心がけています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の床屋・産直・学校の協力をもらい、入居者の家での生活を継続出来るように援助しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診にあたっては、家族と職員間で情報の共有に努めています。また希望があれば付き添い（1回1．000円）ます。	利用者はそれぞれのかかりつけ医をもっている。受診にあたって特に留意していることは、かかりつけ医との情報交換とその共有であり、ホームからは文書で、かかりつけ医からは受診介助者に口頭で伝えていただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の体調変化に関して、状態を看護師に報告し、状況によっては主治医の指示を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携が取れるように努めています。また入院時には情報提供を行い、関係を築くようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については家族との相談・意向をケアプランで取り入れ、実施しています。週末期については対象者がいないため、まだ取り組んではいません。	医療施設ではないことを基本として、重度化した場合の対応は本人、家族の意向を踏まえ、ケアプランに取り入れて実施している。終末期の対応については今後の課題としている。	事業計画の中に看取りも対象とし、職員研修も行っているが、重要な課題であり、今後はさらに指針化を検討するなど、一層の取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救急救命処置の研修などを取り入れています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画は同じ敷地内にある特別養護老人ホームと同じで、地区民が参加する避難訓練・消火訓練などは合同で行っています。またグループホーム独自で夜間想定避難訓練をおこなっています。	防災関係の訓練は、全体で年5回実施しており、1回は夜間想定としている。八天地区民との協力による避難訓練は、特養ホームと合同で行っている。災害の備蓄もしている。	夜間を想定した事業所独自の避難訓練を実施しているが、近隣地域住民の参加が十分ではないので、今後は法人の協力はもちろん、地域の協力を得た形での効果的な避難訓練の実施について前向きに取り組むことを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の基本理念を毎朝朝礼終了後に唱和し、徹底を図っています。	職員から見て、利用者は人生の先輩として尊敬し、日常の支援活動に努めている。親しさの中にも礼を失しない態度を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中での観察や会話などから個々の思いをくみ取り、出来るだけ自己決定出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中での観察や会話などから個々の思いをくみ取り、出来るだけ自己決定出来るように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活の中での観察や会話などから個々の思いをくみ取り、出来るだけ自己決定出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は朝・昼・夕食を職員が作り、入居者の方が目・鼻・耳で楽しめるよう、また食前にメニューを伝えて、食事中の話題としています。片付けは食器洗いやテーブル拭きを手伝っていただけるよう援助しています。	会食の献立について、食事時に担当の職員が、調理の仕方や盛り付け等について、「検食簿」でチェックし、その積み上げを参考に食事作りや年6回ぐらい実施するバイキングの内容を考えている。また、毎月1回程度の外食をするが、利用者の体調的な事もあり、頻度が少なくなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が入所者の希望を聞きながら、栄養が偏らないようにメニューを決めています。また旬の食材を使い、季節が感じられるように援助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導し、出来るだけトイレでの排泄支援を行っています。	ほとんどの利用者が尿取りパットや紙パンツを使用している。したがって、利用者一人ひとりの状況をチェック表によって把握し、声掛けをし誘導している。特に、昼食後は口腔ケア後、必ず誘導する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便のチェックを行い、水分や運動などで対応しています。また昼食に毎日ヨーグルトを提供し自然な排便が出来るように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各入居者に合わせ、昼食後に入る午後入浴と夕食後に入る夜間入浴を実施しています。また季節を感じていただくために、バラやゆず湯などを実施しています。男性の入居者には、出来るだけ同性介助とし、時間を決めず本人の希望する時間に入浴を行っている。	浴槽は、一般用と身障者用が備えられており、いずれも利用されている。朝・午後・夕食後に利用者の希望に応じて、入浴ができるように、弾力的な時間設定をしている。一人週3回程度の入浴になっていて、全て介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡時間の確保や一部夜間入浴を実施し、気持ちよく眠れるように支援しています。また各入居者の排泄パターンに合わせ、声がけや誘導しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書など活用し、誤薬の防止に努めています。また処方の変更は連絡帳に記載し、職員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で掃除・食器洗い・テーブル拭きなど個々に合わせ無理のない役割を支援しています。また風船バレーや歌などのレクリエーションでグループ活動に参加することで、楽しみのある生活を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時は職員が付き添い、外出支援しています。また花見や地元の文化祭・祭などにも家族や地区民の協力をいただきながら出かけれるように支援しています。	日常的な外出は職員が付き添って行っているほか、出来るだけ外気に触れて気分転換をするために、玄関先や中庭に面した広いベランダにテーブルと椅子を準備し、くつろげるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金を所持していませんが、希望される方はご家族と相談の上で可能です。また希望時は買い物が出来るように支援します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を希望される入居者には、その都度対応しています。電話は施設の電話を利用していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有する空間は落ち着いた雰囲気を出すために白を基調としています。壁画装飾や観葉植物などを使い、心地良い生活空間作りに努めています。また同時に、こたつで横になりながらテレビを観たり、昼寝ができるような家庭的な環境作りもしています。	ホール、食堂、廊下等の共用空間は白を基調とした明るい雰囲気であり、壁掛けや観葉植物、七夕飾りなどと相まって落ち着きと柔らかさが感じられる。自由にテレビを見たり、昼寝ができるような家庭的な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも和室や談話コーナーなど、独りでも数人でも過ごしやすいように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は個人の家と考え、自宅から使用していた家具や趣味の道具を持ち込んでいただき、居心地の良い環境作りをしています。	利用者一人ひとりが、使い慣れたものを自由に持ち込んでいいことを話している。実見し、それぞれ特色ある居室づくりをしていることが窺われ、想い出の写真を飾り、過去を忘れないように工夫をしている様子も垣間見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる条件」「わかる条件」を職員会議で確認し、ケース担当が中心となり実施しています。		